

■特集 県政この1年 ●いわての平成2年



県立宮古短期大学のキャンパス風景。東北の公立短大で初の「経営情報学科」を持ち、国際化、情報化社会に羽ばたく人材育成を目指す

●平成2年県勢ビッグテン

順位	項目	目
1	県立宮古短期大学が開学するなど国際化、情報化社会をリードする人材の育成が本格化。県営武道館の落成など青少年の健全育成施設の整備も進む	
2	国道343号神明前工区が開通するなど県単高速交通開通道路8ルート12路線の整備ほぼ完了。国道397号種山地区の供用開始や東北横断自動車道釜石・秋田線の本県側起工で高速交通網の整備に新展開	
3	本県で開催のインタハイ大会で小田選手が県勢として26年ぶりに優勝したほか、宮城インタハイ、福岡国体でも高校生の優勝が相次ぐなどスポーツの各分野で若い力が躍動	
4	二度の集中豪雨で372億円の被害、災害対策に全力を挙げる。「小本川水門」「入畑ダム」の竣工や久慈港湾防波堤の着工など防災対策進む	
5	海洋バイオ釜石センターの完成やトレンド'90の開催など高度技術化の諸施策が進む	
6	ロサンゼルスへの海外アンテナショップ開設やハイテク調査船「岩手丸」の竣工など新しい時代に対応する農林水産業の振興策展開	
7	1年後に控えたねりんピックいわて大会の準備本格化。三陸・海の博覧会、アルペンスキー世界選手権大会、国民文化祭と続くビッグイベントも推進体制整う	
8	第1回シルバーの船が出航。重度身障者の働く場「クリーンピアいわて」も操業開始するなど福祉の充実図られる。開設40周年の県立病院で延べ外来患者数1億人突破	
9	ゴルフ場開発適正指導の要綱策定や環境保全4億円基金のスタートなどで開発と環境との調和に配慮した施策本格化	
10	昭和51年以降、最悪の交通事故死者に県交通安全対策協議会が初の非常事態宣言。各団体一体となって事故防止運動を展開	



今年3月に落成した武道の殿堂「県営武道館」
青少年の健全育成施設としても期待が大きい

今年の1月、インタハイと国体スケートの地元開催で幕を開けた平成2年もあとわずか。いろいろな思い出を乗せ新しい年に向かおうとしています。

新たな気持ちで平成3年を迎えるべく、県政この一年を振り返ってみました。

- 1月7日 「優れた景観668カ所」環境庁の自然資源調査で選定された本県の自然景観の数。断がい・湿げんの数は全国一
- 1月8日 釜石湾口防波堤の本体となる第一号の大型ケーソン完成。高さ30m、重さ16,000トで世界最大級
- 1月20日 インタハイスケート大会開催
- 1月23日 インタハイスケート男子1,500mで小田選手が県勢として26年ぶりの優勝
- 1月28日 「もりおかスケート国体」開催



11年ぶりの開催となったスケート国体。県民一体となった取り組みに各県選手団から高い評価を得た

- 1月29日 第1回シルバー洋上セミナー出航



団員393人を乗せ大船渡港から出航したシルバーの船。21世紀に迎える本格的な高齢化社会に向けた新しい取り組みとして注目されている

- 2月12日 全日本ノルディック安代開催
- 2月14日 全日本スキー選手権大会・アルペン種目開催



'93世界アルペン盛岡・雫石大会のリハーサル大会として行われた全日本スキー選手権大会。FISの公認レースのため国際大会も同時に開催され、ボランティア通訳が大活躍

- 2月26日 平成5年に本県開催の第8回国民文化祭の基本構想発表。「縄文発信・未来発見」がテーマ
- 2月27日 全国ろうあ者冬季体育大会開催
- 3月1日 都内で「大いわて展」開催。最高の115店が出店
- 3月3日 海洋性の野外活動センター(陸前高田市)が平成3年度完成目指し起工



野外活動センターのイメージイラスト。当地の温暖な気候を生かしヨットやボートなどの海洋スポーツを楽しめるマリナーをつくるほか、キャンプや合宿もできる施設となる

平成2年 いわてグラフィック 一言メモ



かたがた ぜんじ 片方 善治さん (1月号)

時代の潮流の中で岩手は変わっていくと思います。いや応なく変わります。けれども変わるんじゃなくて、変える岩手という意識が大事じゃないでしょうか。



さいとう てつこ 齋藤 徹子さん (1月号)

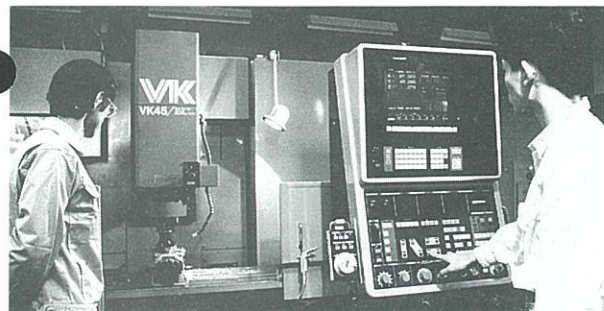
誘致企業について、市民としてお願いしたいことは、工場用地だけではなくて、せっかく岩手の広大な土地があるわけですから、そこにもう一つ文化的なものもつなぎ合わせてもらいたいと思います。

- 3月10日 東北初、第3セクター方式による重度身障者雇用企業「クリーンピアいわて」操業開始
- 3月18日 武道の殿堂「県営武道館」が落成
- 3月22日 ハイテク機器を装備した漁業指導調査船「岩手丸」が竣工



3月22日水産試験場に配属された「岩手丸」。ハイブリッド航法装置や自航式の水中型テレビなど最新の設備を持ち、2000年代の本県漁業振興への大きな役割を担っている

- 3月26日 ハイテク情報の広域ネットワーク「ハイテクネットとうほく」開局
- 3月28日 国際交流推進の指針策定
- 3月28日 環境保全4億円基金スタート
- 3月29日 盛岡市が都南村に合併の正式申し入れ
- 3月30日 目標の3億円を突破、いわて愛の健康づくり財団「じん不全」基金
- 4月12日 「県立高度技術専門学院」が開校。



水沢市に開校した「県立高度技術専門学院」。自治体開設としては全国初の訓練課程をもつ教育機関

平成2年 いわてグラフィック 一言メモ



よしだ きよひと 吉田 清人さん (2月号)

今、私たちに必要なのは、お金ではあがえない素晴らしい農村の心を認識し、自信を持って農業を育てていくことだと思います。

- 4月13日 ねんりんピック実行委員会が設立
- 4月15日 ポニースクール岩手で春のフェスティバル開催
- 4月16日 海洋バイオテクノロジー(生物工学)の研究拠点「釜石センター」がオープン



海洋バイオ釜石センターは、通産省のプロジェクトで世界でも数少ない海洋バイオテクノロジーの研究拠点として内外から注目を集めている

- 4月16日 三陸鉄道イベント列車の出発式。ワインレッドが「くろしお号」、モスグリーンが「おやしお号」と命名
- 4月18日 ニューキャンパス「県立宮古短期大学」が開学



宮古短大の入学式で抱負を述べる学生の代表



ふるみず さちよ 古水 幸代さん (3月号)

1泊2日でしたが、体の不自由な方の食事の世話や、運動訓練の手伝いを実際にしてみて、やっていけそうだと感じました。考えているだけでなく、とにかくやってみるということが大事なんですね。

5月1日 「三陸・海の博覧会」の基本計画決まる。釜石、宮古、山田の三会場で平成4年7月4日から74日間



三陸博の主会場となる釜石市平田地区の全景

5月8日 磐井川流域下水道一期部分供用開始
5月10日 '93世界アルペンの組織委員会が発足。大会まで「あと1,000日」
6月1日 産業廃棄物処理指導要綱策定
6月10日 第2回世界アルペンフェスティバルが開催



'93世界アルペン開催決定を記念して行われた2回目のフェスティバル。開会式典のほか、街頭パレードがにぎやかに行われた

6月14日 本県と北海道、青森が東北新幹線盛岡以北で決起大会。早期本格着工など決議し、関係省庁などに陳情

6月19日 古里Uターン歓迎「県就職ガイダンス」都内で初開催



首都圏在住の大学生などUターン希望者を対象に行った「いわて就職ガイダンス」の様子

6月25日 酪農ヘルパー制度スタート!
6月27日 2,000年までの10カ年計画「ポスト新県総合発展計画」の策定方針を審議会に諮問
6月27日 ゴルフ場の農業使用に対して水質保全連絡会議を設置
7月5日 「須川・焼石山麓リゾート構想」策定。県版リゾート構想第1号として地元の期待を担う
7月7日 21回目の「知事と一緒に市場を視察する会」が開催



岩手野菜のPRをする中村知事。近年、品質の良さに高い評価を得ており、市場関係者からも励ましの声が寄せられた

7月10日 釜石市が三陸博の推進協議会を設立。市民ぐるみで成功目指す
7月13日 新幹線の来年6月東京乗り入れへ向け、工事再開
7月17日 県農産物等海外市場開拓推進協議会が設立
7月23日 国民文化祭実行委員会が発足



平成5年開催の国民文化祭の実行委員会設立総会。本年度中に具体的な開催地、開催日、会場などが決定される

7月25日 ゴルフ場などの大規模開発指導要綱策定
7月30日 開設40周年の県立病院で延べ外来患者数「1億人突破」
7月31日 水産試験場の再編整備構想まとまる
8月2日 主要地方道一関大東線東山バイパス羽根掘工区が開通
8月21日 中東情勢の不安定化に伴い、県が7年ぶり省エネ対策
8月23日 国際花と緑の博覧会会場で「岩手の日」開催



セレモニー会場となったメインホールでミスさんさらによる華麗なさんさ踊りなどが人気を博し、大いに岩手を売り込む一日となった

8月27日 開業26年で「300万人突破」の花巻空港乗降者数



花巻空港は乗降者の増加とあわせ、生鮮食料品や花きなどの貨物の伸びも著しい

8月28日 「21世紀の夢を語る少年会議」が開催
8月31日 「入畑発電所」が竣工
9月11日 「東北横断自動車道釜石・秋田線」本県側着工
9月13日 県・盛岡市・都南村が盛南開発の事業要請。地域振興整備公団が受理し、来年度着手へ
9月14日 西根町で今年最後の県政懇談会開催
9月19日 台風19号本県に上陸。最終被害額は160億円
9月21日 トレンド'90開催



9月21日から5日間、滝沢村の産業文化センターで開催されたトレンド'90。5万人以上の人でにぎわった

平成2年 いわてグラフィック 一言メモ



たかはし やすふみ 高橋 康文さん (4月号)

「雪国文化」の名は、縄文文化を意識したものじゃないかと考えているんです。縄文人は北陸以北の雪国で狩猟などをして暮らしていました。その知恵が雪国文化の根っじゃないかと思ひます。



やました ふみよ 山下 文男さん (5月号)

日本で有史以来、一度に1万人以上の犠牲者を出した災害が5回ありました。このうち、4回までが津波によるものです。ほかの災害に比べて発生頻度が低いのでその怖さを忘れがちなんです。

平成2年 いわてグラフィック 一言メモ



はかまだ しょうさく 袴田 昇作さん (6月号)

こどもフェスティバルには、お父さんとおばあちゃんに連れられて来ました。竹細工づくりは初めてであり得意じゃないけれど、とても楽しいです。将来は元気のいい大人になりたいです。



せつたい こういち 摂待 浩一さん (8月号)

地元で短大ができるということで、この学校を選びました。僕たちが第一回生となるのでこの短大の校風づくり、基礎づくりをしっかりやっていきたいと思ひます。

- 9月22日 東北各県からの参加のもと「ねりんピックプレ大会」を開催
- 9月22日 東京～釧路を結ぶ豪華フェリー「さぶりな」が宮古港に試験寄港



県と地元の熱いラブコールで実現した「さぶりな」の寄港。港の活性化で地域の活性化を目指す

- 9月26日 柳之御所保存で中尊寺の署名10万人を超える
- 9月28日 交通事故死者激増に県交通安全対策協議会が初の非常事態宣言
- 9月28日 '93世界アルペン実行委員会が発足
- 10月1日 在宅介護支援センターが盛岡市と北上市に開設
- 10月2日 ねりんピックびわこ大会閉会式で本県大会旗引き継ぐ



堂々の入場行進をする本県選手団。来年は本県で開催のねりんピック

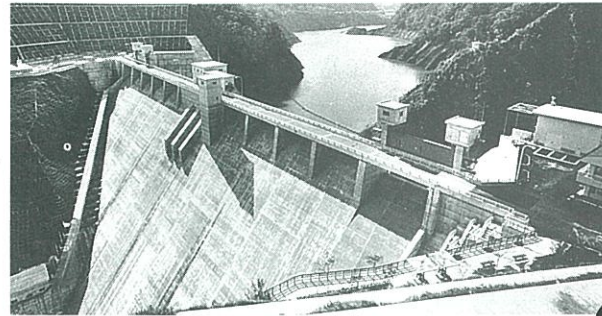
- 10月2日 「観光国体」来秋北東北で開催が決定
- 10月5日 開館10周年の県立博物館で特別企画展「北の鉄文化」開催

平成2年 いわての平成一言メモ



内藤 仁子さん (8月号)
岩手に来ての感想は、宮澤賢治とか石川啄木とか優れた先人が多いなということ、それと京都とは違った歴史や伝統が息づいているなということです。

- 10月12日 久慈港湾口防波堤が着工。延べ3,800坪の大防波堤建設で水産業のほか産業振興に期待
- 10月13日 北上市、和賀町、江釣子村が合併協定に合意し合併確定。来年4月に新しい市が誕生
- 10月16日 「入畑ダム」が竣工



県営最大規模の入畑ダム。治水をはじめ工業用水、発電などの多目的ダムで防災のほか、産業振興にも大きく期待されている

- 10月17日 岩手高齢者大学一関校が開校
- 10月18日 国道397号種山地区(江刺市)の供用開始



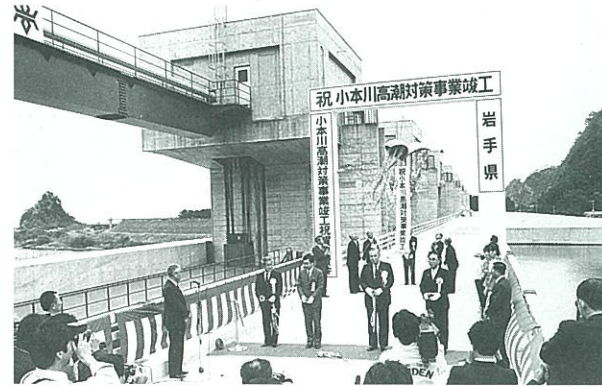
種山地区の供用で、大船渡市などの沿岸部と水沢市などの内陸部との交通が大幅に改善された

- 10月23日 国道343号神明前工区(陸前高田市)が開通
- 10月30日 青森で第二国土軸推進シンポジウム開催
- 10月31日 八幡平有料道路の本年度利用台数が194,784台で過去最高を記録
- 11月1日 医療局開庁40周年を迎える



黒澤 和雄さん (9月号)
箏曲は日本人の繊細な感覚で作りに上げてきた音楽です。海外での活動を通じて日本に対する正当理解を進めていきたいですね。我々の演奏がその一助になればうれしいです。

- 11月1日 環境保全基金による環境情報センター発足
- 11月2日 19年の歳月と116億円の巨費で「小本川水門」完工



津波対策として昭和47年から工事が進められていた「小本川水門」の完工式。長さ221坪、高さ13.3坪でこの種のものとしては日本最大級

- 11月4日 4日から5日にかけて大雨災害発生。最終被害額212億円
- 11月7日 北海道・東北知事会議を盛岡市で開催
- 11月9日 二戸市内と一戸インターを最短距離で結ぶ農免農道「末の松山地区」(県内初の農道トンネル) 完工
- 11月10日 国営胆沢平野地区かんがい排水事業起工
- 11月17日 ロサンゼルスに海外アンテナショップを開設



アメリカへの本県農産物・加工品の輸出の可能性を探るアンテナショップ。切り干し大根、長芋、ワサビなど86種の商品は、売り切れとなるものが出るなど人気を集めた

平成2年 いわての平成一言メモ



小松 宏さん (9月号)
「おめでとう」「すばらしかったよ」と何度も言われました。青年の船の感激、感動には偉大な力があることを知りました。青年たちの純粋な熱意が人を動かし、地域を動かしたのだと思いました。

- 11月19日 スパイクタイヤ使用禁止地域に盛岡など53市町村を国に申し出
- 11月22日 三陸博がジャパンエキスポ制度の認定を受ける

そのほかの主な出来事



- 県が沿岸市町村等防災主管課長会議で津波に対する統一見解を示す。「警報出たら、すぐ避難命令」
- 県農業試験場がおいしい米づくりを目指し新品種の独自開発10年計画策定
- 県内各自治体で隔週土曜閉庁の動き活発化
- イラク・クウェート問題で灯油価格高騰。県、石油製品を調査監視
- 三陸鉄道が開業以来6年連続の黒字
- 県、7年ぶりに省エネ対策を実施
- 岩手産業文化センターに国際的な会議も実施できる設備の整備着手
- 地価高騰防止のため、県が盛岡市の市街化区域を取引監視区域に指定
- 国際化進み、県内在住の外国人2千人超す

1990スポーツ界(全国大会での主な優勝)

1月20日インタハイスケート大会開幕。1月23日インタハイスケート男子1500坪で小田智樹が26年ぶりの優勝。1月28日スケート国体開幕、11年ぶりの地元国体で県民一体となった取り組み。2月スキー国体の成年女子5坪。1部Bで伊藤美香、成人男子複合1部Bで丸山寿明が優勝。3月13日アジア冬季大会バイアスロンリレーで小館操が金メダル。8月インタハイレスリング競技フリースタイル54坪級で星政宏が優勝。8月インタハイヨット競技で女子スナイプ級に女子ペアが、FJ級に男子ペアと女子ペアが共に優勝。8月全国中学陸上男子1500坪で中村賢太郎が優勝。10月秋季国体陸上競技走り高跳び少年男子Aで吉田正輝選手、ボクシング少年バンタム級で松好康紀、ホッケー少年女子で全岩手が優勝。